

委員会審査結果報告

令和4年12月定例会中に開催された、
各常任委員会の審査・活動報告です。

嘉麻市の常任委員会とは、下記3委員会のことです。

- 総務財政委員会
- 民生文教委員会
- 産業建設委員会



総務財政委員会

段階的に定年65歳まで延長

**市職員の定年等に関
する条例等の一部
を改正する等の条例**

この議案は、地方公務員法等の改正に伴い、条例に所要の改正を行うため提案されたものです。

執行部より、今回の改正は、令和3年6月に「国家公務員法及び地方公務員法の一部を改正する法律」が成立し、令和5年4月より施行することに伴い、現在の60歳定年を令和5年度から2年ごとに1歳ずつ段階的に引き上げ、令和13年度以降は65歳定年とするものである。

これに伴う措置として、課長補佐級以上の管理監督職に就いている職員を原則60歳以降は、主査級の職に異動させる役職定年制や、60歳に達した日以降、定年前に退職した職員について、本人の希望により短時間勤務の職で再任することができ、定年前再任用短時間

勤務制の導入。そして60歳に達する前年度に、十分な情報提供や説明を行い、職員の意思の確認を行う情報・意思確認制度並びに、60歳に達した職員の給与水準を最終的に7割水準とし、退職手当については、当分の間、ピーク時特例が適用され、減額されないこととするものである旨の説明がありました。

委員より、定年が延長になると、正規職員数が増加し、人件費も増加する見込みから、定員適正化計画及び財政計画の見直しが必要ではないかという質問に対し、働き方が多様化していくため、状況を注視しながら、財政当局と情報を共有し、計画の変更を判断したいと考えている旨の回答がありました。

※ 審査の結果、全会一致で可決しました。

※ 本会議では、全会一致で可決されました。



委員
中嶋 時夫



委員
畠中 博文



委員
藤 伸一



副委員長
豊田 一元



委員長
出水 貴之

民生文教委員会

コンビニで住民票取得

手数料条例の一部を改正する条例

この議案は、マイナンバーカードを利用し、コンビニエンスストア等に設置されている多機能端末機から住民票の写しなどの交付に係る手数料を減額することに伴い、条例に所要の改正を行うため、提案されたものです。

執行部より、令和5年1月から始まるマイナンバーカードを利用した、コンビニエンスストア等に設置された多機能端末機からの住民票の写しなどの交付の際の手数料を、庁舎窓口にて交付する場合より、それぞれ100円減額する。また、コンビニ交付を利用することで、市役所窓口に来庁することなく証明書等の取得ができることから、窓口の混雑緩和にもつながると考えている。また、手数料を減額することで、マイナンバーカードのメ

リットを実感してもらい、更なる利用促進を図っていく旨の説明がありました。

委員より、マイナンバーカードを不正使用される危険性があると思うが、個人の本人通知制度はあるのかという意見に対し、本人通知制度については、被害が起こったときに通知をする制度というものは行っており、現在、登録型の本人通知制度の規定の整備に取りかかっている旨の回答がありました。

※ 審査の結果、全会一致で可決しました。

※ 本会議では、全会一致で可決されました。



産業建設委員会

指定管理者継続審査に

観光拠点施設「足白農泊施設」の指定管理者の指定

この議案は、足白農泊施設の指定管理者として、株式会社Rを指定するため提案されたものです。

選定理由として、提出された事業計画の内容などについて、総合的に審査した結果、当該施設の十分な管理運営を行うことができるものと判断したため、候補者として選定したものであるとの説明がありました。

委員より、指定管理費のうち初年度に上乗している1千万円の算定根拠は何かとの質問に対し、指定管理者を採す上で様々な民間事業者と意見交換を行った中で、市が希望する2千万円の指定管理料で運営を始めるのは現実的には無理があり、何らかの支援措置が必要であると判断した。また、農泊施設の実質収支が昨年度2千30

0万円の赤字となっており、これに職員人件費の間接経費を入れると3千万円の赤字となっているので、初年度予算2千万円の指定管理料に1千万円を上乗せすることで、より多くの民間事業者に手を挙げてもらえるのではないかと考えた旨の回答がありました。

委員からは、「無理やり業者を連れてくるのではなく、来なかったら休館にすればいい」という意見や、不当接触について、執行部の行った内部調査の結果だけではなく、市に提出された指定管理者候補者選定に関する審査請求の結果を見るなど慎重な審査が必要であるとの意見等もありました。

※ 審査の結果、賛成多数で継続審査となりました。

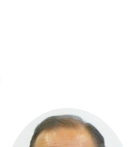
※ 本会議では、全会一致で継続審査となりました。



委員
坂口 政義



委員
吉永 雪男



委員
廣方 悟



副委員長
田上 孝樹



委員長
北畠 敬三